

地域で取り組む防犯

岡山県岡山市立香和中学校 3年 ^{あかぎ}赤木 ^{りさ}理紗



パッと、真っ黒だったテレビの画面がニュース番組の画面に切りかわった。最近目に飛び込んでくるニュースは悲しい事件が多いような気がする。どうすれば犯罪を減らすことができるのだろうか。犯罪をなくし、社会をよりよくするために何かしたい。しかし、中学生の私にもできることはあるのだろうか。

私が「防犯」ときいてまず思い浮かべるのは、町内の方が行っている防犯パトロールだ。町内にいるたくさんの方が地域の安全のためにしていて、私の父もパトロールを行っている。他には小学生や中学生が通る通学路での見守り活動など、防犯といえば「大人がしているもの」というイメージがあり、中学生ができることは思いつかなかった。防犯は大切なことだと思うが、自分ができる防犯について考えたことはなかった。自分にできることを探そうと思い、防犯について調べてみることにした。

調べてみて、清掃活動をすることによって犯罪を減らすことができるということを初めて知った。清掃活動をするのが本当に防犯になるのだろうか。最初は疑問に思ったが、くわしく調べてみて納得した。環境犯罪学という学問の中に「割れ窓理論」というものがある。建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていない象徴となり、他の窓も壊されてしまう傾向が高い。その事実から、反対に「割れた窓をすぐに修理すれば、他の窓が割られる確率が低くなる」という説を唱えた理論だ。ゴミについても同じことをいうことができる。路上のゴミを放置しているまちは、ゴミに関して誰も注意を払っていないという象徴となり、さらにゴミが捨てられるようになる。そのような環境の中では「少しくらいルールを破っても誰も気にしないだろう」という気持ちが芽生え、犯罪が起りやすくなる可能性がある。反対に、きれいに掃除されている場所にゴミを捨てるのは心理的な抵抗感が強い。たしかにそのような環境のほうが犯罪は起りにくいだろう。このように、まちがきれいな状態を保つことが、犯罪の抑制につながるということが分かる。

清掃活動以外にも、防犯の効果があるものを見つけた。それはあいさつだ。あいさつは、してもされても少し嬉しくなれるものだ。だが、実はあいさつの効果はそれだけではない。近所の人とあいさつをすることによって、地域の絆が深まり、コミュニケーションが活性化する。地域のコミュニティが形成されると、「犯行がばれやすそうだ」と犯罪を行おうとする人物に思わせることができ、犯罪を未然に防ぐことができる。実際に、犯行を下見段階であきらめた理由で最も多いのは「近所の人に声をかけられたり、住民同士があいさつして

いるのを見たりしたから」というものだった。あいさつをすることによって、自分も相手も良い気持ちになることができ、良好な人間関係を築くことができる。そして防犯にもなる。まさに一石二鳥だ。

また、あいさつや清掃活動以外にも、外から部屋の中が見えないように工夫したり、短い時間外出するときにもドアや窓を確実に施錠したりするなど、少しの意識で防ぐことができる犯罪がたくさんある。大切なことは、中学生も一人ひとりが積極的に防犯について考えて行動することだと思った。防犯についてあまり深く考えたことがない人も多いかもしれないが、一人ひとりが考えて防犯に取り組むことで、犯罪が少なく、より安全な社会にすることができると思う。

防犯について調べたり考えたりした結果、私にもできることを見つけることができた。一つ目は、地域の清掃活動に参加することだ。公園や道をきれいにする活動が、時々私の町内でも行われている。私が小学生のころはよく参加していたが、中学生になってからは参加することがほとんどなくなっていた。その活動にこれからは私も参加したいと思った。二つ目は、積極的にあいさつをすることだ。今までは、近所の人にあいさつをされたときに返すことしかできていなかったが、これからは自分からあいさつすることを心がけて生活していきたいと思う。

防犯は中学生でもできることがたくさんあると分かった。地域全体で取り組めば、犯罪を防ぐことができると思う。これから色々な防犯に取り組んだり、他にもできることを探したりしようと思った。そして、いつか犯罪のない社会を実現させたい。